不登校の予防を目指す発達段階に応じた支援

不登校のサインを各発達段階における発達課題の観点から見極め、個々の児童生徒が発達課題を達成しているか確認し、不足していると思われる発達課題を補いながら支援を行うことは有効な対応策であると考えられる。

小学校低学年＜自主性のめばえ＞

特徴

○小学生は教師や親の影響を受けやすい。時として親よりも教師の話をよく聴く場合もあるので、一層教師の言動には注意する必要がある。教師の影響を受けやすい時期であるので上手に支援すると効果が大きい。
○興味をもったことは頑張れる。
○ちょっとしたことから子どもが母親から離れることに不安をもったり、母親の方が不安をもったりする。

不登校のサイン

○母親の後を追うようになる。
○ちょっとしたことで機嫌が悪くなる。
○休み明けに登校を渋るようになる。
○声が小さく元気よくあいさつできない。
○外遊びが苦手で友達の輪に入れない。
○やりたくないことは、避けてしまう。

対応方法

○母親と一緒であれば登校できる時は、母親がつきそって行くようにする。教室で一緒に座ってもらい、少しずつ離していく。
○子どもに任せる部分を多くして、後ろから見守っていくスタンスが大切である。
○教師はできるだけ声をかけて、小さいことでも認める。
○上手くできたらしっかりほめる。
○時間を守ったり、宿題がしっかりできたりするように支援する。

小学校中学年＜自主性の発達＞

特徴

○あらゆることに好奇心をもち、未知の事を積極的に探求し出す。
○やらなければならないことに自ら取り組んでいく時期である。
○やればできるという自信を得ていく時期である。
○仲間と群れて遊ぶ楽しさを知る。

不登校のサイン

○物事に対して失敗を恐れ尻込みしてしまう。
○学習に対して意欲が弱まり、忘れ物も多くなる。
○友だちづきあいがうまくいかず、親しい友だちがつくれない。

対応方法

○教師はできるだけ声をかけてあげ、励ましながら、人とのかかわりの心地さを教えてやる。
○起床などを含め身の回りのことを自分でやらせる。
○係活動や家の手伝いをやらせて、できたときはたくさんほめる。
○本人の意志をくんで自分からやろうと思ったことをやらせる。
○人間関係づくりの活動を取り入れて、学級に温かい風土をつくる。

小学校高学年＜社会性の基礎＞

特徴

○リーダーシップを発揮するなど社会的スキルが伸びる時期である。
○学ぶ内容が難しくなり、競争も激しくなってくるので、それが心理的な負担となる面が出てくる。
○この時期の生活スタイルは以前に比べて個を重視し、異年齢の集団で群れて遊ぶ場面も少なくなったので、多くは学級という同年齢の集団が中心となってくる。
○やらなければならないことには自分の欲求を抑えてでも取り組む気持ちが育つ。
○友だちとの信頼感やきずなを大切にする。

不登校のサイン

○プライドが高く、失敗を極端に恐れる。
○人がほとんど気にもかけないことをひどく気に病み疲れてしまう。
○人との接触に気持ちが向かわず、疲れてしまう。
○やらなければならないことがあるのに、逃げてしまう。
○親密な人間関係が築けない。
○言葉遣いが乱れる。

対応方法

○本人とコミュニケーションできる関係をつくり、気持ちを受け止める。
○小集団の生活から慣れさせながら、友だちを思いやる心を育てる。
○目標を持たせ、それに向かって自己実現するための支援をする。
○異年齢の子どもとの交流の場をもたせる。
○場に応じた適切な言動が必要なことを理解させる。
○本人の得意なことでかかわり、それを認めたりほめたりして、失敗より成功のイメージを強くもたせる。

中学校＜自我の確立＞

特徴

○身体が急激に変化し、性的に成熟していく時期である。
○自分の行動を見つめ直し、自己理解を深める。
○自分の欲望をコントロールできる。
○自分の容姿を気にする。
○気持ちが不安定となる。
○将来に夢を持つ。

不登校のサイン

○体育や特定の教科に参加しなかったり、部活動をさぼったり退部したりする。
○教師や学校の規則に対しての不満を親に言ったりする。
○人からの目を非常に気にして、外見にもこだわる。
○神経過敏になり、ささいなことで腹を立てる。
○やけを起こして、行動が荒っぽくなる。

対応方法

○反抗期の難しい年代なので、本人との人間関係をしっかりつくる。
○子ども扱いしないで話をじっくり聴いて、気持ちを理解してやる。その後、行動を制限すると、効果的なことが多い。
○子どもの気持ちを受容的に受け止めつつ、解決のための方針は自己決定で行う。
○強い干渉をせず、本人が考え、決めたことを実行させ、できたら認める。
○矛盾した話をしたり、大人の価値観を子どもに押しつけたりしない。本人が納得することを大切にする。

高等学校＜自己啓発＞

特徴

○対人感情が発達し、他者との比較や自己評価ができる。
○自分らしさを求め、確立する時期である。
○自分の考えを客観的に反省することができる。
○自分の将来を現状を踏まえて具体的に考えられる。

不登校のサイン

○学校に対して批判的になる。
・先生と気が合わないと言う。
・学校の勉強などくだらないと言う。
・友だちと気が合わない、友だちができないと不満を言う。
○何に対しても無気力になり、目的意識も低下する。
○自分の考えと違う意見にむきになって反論する。
○進路選択で投げやりな態度をとる。

対応方法

○本人のよさや可能性を見出し、それを認めるようにかかわる。
○子どもを一人の人格のある人として認め、共に解決を目指しながら、子どもの視野を広げてやるような支援を図る。子どもの心に寄り添いながらも、距離を置いたかかわりも大切である。
○子どもの悩みは強いものになっていくので、励ますより積極的に聴くことを意識する。
○学校・家庭生活の様子をくわしく検討し、具体的な問題があれば、父母、生徒と共に問題解決の方法を探る。